475 心不全を合併した虚血性心疾患におけるTrapidilの効果 －運動負荷心ﾌﾟｰﾙｼﾝﾁによる検討－

古田敏也，下方辰幸，黒川洋，桜井充，渡辺佳彦，水野康
（藤田学園保衛大・医・内），近藤武，安野泰史，江尻和隆，
前田寿登，竹内昭（同・衛・放技）

うっ血性心不全を合併した虚血性心疾患患者5例を対象にTrapidil 300mgを1回経口投与し，その前後で運動負荷心ﾌﾟｰﾙｼﾝﾁを行い，血行動態におよぼす急性効果について検討した。負荷は自転車ｴﾙｺﾞﾒｰﾀｰで25wattより3分毎25wattずつ増加させる多段階漸増負荷とし，ｶｳﾝﾄ・ﾍﾞｰｽﾄﾞ法により左室容積，駆出率，心拍出量などを算出し，血行動態の変化および運動耐容能につき観察した。運動負荷で心機能が悪化した例においてTrapidilは心機能低下を抑制，また改善させた。以上よりTrapidilは心不全を合併した虚血性心疾患にも安全に使用し得る冠拡張剤であると思われた。

476 慢性心不全患者における強心薬デノパミン単回経口投与の有用性 ― 心プール法による検討

岡田充弘，村松博文，棚橋淑文（名古屋掖済会病院内科）
高柳光雄，松浦　浩（同中央放射線部）近藤一正，
松島英夫，鈴木晃夫，横田充弘，林　博史（名古屋大学第一内科）外畑　巌（藤田学園保健衛生大学内科）

心不全患者11名を対象としてデノパミン(15 or 30mg)単回経口投与の有用性を心プール法により検討した。

左室駆出分画は投与前34.5から120分後では40.4％へ増加した。投与後120分では心拍出量は投与前に比し増加し，末梢血管抵抗は低下する傾向であった。単回投与後の心拍出量の増加と血漿濃度（平均11.3ng/ml）とは有意な正相関を示した。重篤な副作用は出現しなかった。

心プール法による検討から強心薬デノパミン単回経口投与は心不全患者の心機能改善において有用であることが示された。

477 経口強心剤Corwinの心不全に対する有用性についての検討

川村陽一（日本鋼管病院内科），増岡忠道(同・RI科)
半田俊之介（慶大内科）

新しい経口強心剤Corwinの心不全に対する効果を心プール法にて検討した。対象はNYHA Ⅱ度の慢性心不全患者10例である。Corwin 200～400mg/日を2ケ月投与し，安静時およびエルゴメーター運動負荷（50W)時に心プールシンチを施行した。また，24時間心電図検査により催不整脈作用の有無につき検討した。

自覚症状は10例中4例で軽度改善した。Corwin投与により，血中カテコラミン濃度，心拍数，血圧，心係数，フェーズ解析の位相のずれの標準偏差および左室の拡張期指標の1/3 FFには有意差なく，左室駆出率LVEFは有意に増加した。運動負荷時のLVEFには有意差がなかった。

Corwin投与による不整脈の増悪はみられなかった。

478 ジピリダモール（DP）RI左室造影（RNV）による虚血性心疾患の評価

殿岡一郎、竹石恭知、山口佳子、目黒光彦、、立木　楷
安井昭二（山形大学第一内科）
駒谷昭夫（同放射線科）

DP投与に対する左室駆出率の反応性（△EF-DP）と心筋虚血との関係を評価することを目的とし、30例の冠動脈疾患々者に対しDP-RNVおよび運動負荷Tl-201（ExT）を行った。6分割した左室心筋の各々についてTl-201再分布指数（RDI）を求め、心筋虚血の指標とした。RDI＜1.12および△EF-DP≧4％が正常域値であり、CADの検出率は、RDI：75％、△EF-DP：76％と同等であった。またExT陽性群は陰性群に比し△EF-DPは有意に低値であった。更にRDIの総和と△EF-DPは $r=-0.67$ ($p<0.01$)の関係を示した。従って△EF-DPは虚血性心疾患の評価に有用であると考えられた。

Presented by Medical*Online